

令和2年度 倉敷市生物多様性審議会 第2回会議 議事録(要旨)

1 日時

令和2年11月17日 14時00分～16時00分

2 場所

倉敷市役所本庁舎2階 207会議室

3 出席者

【委員】13名

奥島委員, 木村委員, 阪田委員, 洲脇委員, 森下委員 (市役所会場参加)  
篤海委員, 片岡委員, 小林委員, 中田委員, 藤原委員, 増子委員,  
山口委員, 山野委員 (web参加)

【事務局】7名

環境リサイクル局 三宅局長  
環境政策部 佐藤部長, 山本次長  
環境政策課 行武課長, 森宗課長代理  
自然保護係 宗田係長, 植田技師

4 欠席者

【委員】1名

青江委員

5 傍聴者 0名

6 報道関係 0社

## 7 次第

1 開会・あいさつ

2 議事

(1) 倉敷市生物多様性地域戦略

短期的目標（2020年度）の評価シート（最終版）について

(2) 倉敷市生物多様性地域戦略

次期短期的目標（2030年度）の見直し（案）について

3 その他

4 閉会

## 8 添付資料

資料1 委員名簿

資料2 【資料1】 短期的目標（2020年度）評価シート（最終版）

資料3 【資料1-1】 生物多様性地域戦略評価シート（案）に対する意見への  
対応について

資料4 【資料2】 短期的目標（2030年度）の見直しについて

資料5 【資料3】 次期短期的目標（2030年度）評価シート（案）

資料6 【資料3-1】 基本目標と短期的目標の関連付けについて（事務局案）

資料7 【資料3-2】 数値目標に対する委員からの意見について

資料8 【資料3-3】 生物多様性に関する基礎データ

## 1 議事要旨

事務局	(議事(1) 倉敷市生物多様性地域戦略 短期的目標(2020年度)の評価シート(最終版)について 説明)
会長	先程の説明について、委員の皆様からご意見やご質問はありますか。
委員	<p>資料1について</p> <p>① 2ページ目左 下から二段目(環境に配慮した活動の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前のページの1-3「地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合」のグラフでも下がっているが、R元年度の実績には「出前講座等を通じて環境に配慮した活動を推進した」とあり、どのような出前講座を何件行ったのか。</li> </ul> <p>② 2ページ目右 上から二段目(生物多様性に配慮した公園づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民の意見をとりいれた公園づくりを推進した」とあるがどこの事例を挙げているのか。</li> </ul> <p>③ 2ページ目右 上から4段目(八間川緑道公園整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八間川東側に緑地を整備したとあるが具体的にどこの場所か。</li> </ul>
事務局	<p>① 出前講座の件数ははっきりとした数字を把握していないため、後日回答する。</p> <p>② 公園緑地課に確認して後日回答する。</p> <p>③ 年間花を5,000本植えているが、具体的な場所は把握していないので後日回答する。</p>
委員	③については、花を緑地に換算するのは良くないと思う。緑地は植え替えない緑と言う意味合いがあると思うので区別してデータをいただければと思う。
委員	<p>① 2ページ目左 上から1段目(アライグマ等特定外来生物について防除計画を作成し防除等対策を実施する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倉敷でアライグマは防除計画を策定するほど出ているのか。</li> <li>・ヌートリアやハクピシン、イノシシなどの情報の方が知りたいのではないか。</li> </ul> <p>② 2ページ目左 上から6段目(冬水たんぼ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望が無かったため未実施とあるが、どこに要望すれば良いのか。</li> </ul> <p>③ 2ページ目左 上から7段目(農地を活用した環境学習の推進)</p>

事務局	<p>・実際にはキャベツや玉ねぎを植えるアグリサポートを実施しているが、環境学習を推進することと繋がりがああるのか。</p> <p>① 現在、鳥獣の防除計画で挙げられているのはアライグマとヌートリアである。アライグマについて現状農業被害は確認されていないが、出現を確認しているため計画には入れている。</p> <p>② 農林水産課で確認できる。</p> <p>③ 市で関与しているのは「田んぼの生き物調べ」であり、田んぼの方と協力して環境学習を推進している。それ以外はもう一度確認し、該当がある場合は改めて知らせる。</p>
会長	<p>外来種について補足。</p> <p>アライグマについては倉敷市で調査をしたわけではなく、あくまで岡山市でのデータであるが、被害の状況などを見ると、現在移動分散過程（よそからやってきた個体が短期的に住み着くがその場に居つかず繁殖には入っていない）にある。子連れのアライグマ等の目撃は無く、恐らく外からやってきたものが定着場所を探している状況が10年以上続いている。ハクビシンについては2015年くらいに初確認記録があり、子連れのハクビシンも見つかっているためハクビシンの方が要注意であるように感じる。評価シートのリストにハクビシンを加えてはどうか。</p> <p>果樹栽培をしている方も多く、ハクビシンは脅威になる可能性もある。</p>
委員	<p>資料1-1 No.2 短期目標3 対応内容について</p> <p>自然海岸の工事で生物多様性に配慮した工事をしているのであれば、「自然海岸は減少しているが配慮した工事を行うように努めている」という書き方をしても良いのではないか。実際には配慮をしているのだろうか。</p>
事務局	<p>最新の結果が平成10年の結果であり、現状はそれ以降調査ができていない。自然に配慮しているかどうか、現地確認を実施していないため事務局としても把握できないため、前回指摘をいただいた、現状の状況の記載に留めたらどうかということで今回の記載としている。</p>
委員	<p>今回の見直しでは良いが、次の見直しに向けて海岸がどのような状況であるか把握するような仕組みづくりを検討してほしい。対応内容の書き方については承知した。</p>

会長	具体的にはどういう形でそのような評価ができるのか。
委員	国立公園内だと環境省で把握しているのではないか。
委員	瀬戸内海国立公園に関しては何らかのデータはあると思う。必要であれば調べる。
委員	国・県・市でそれぞれ把握できるものがあれば、倉敷市に情報提供できるように協力体制が取れればと思う。
委員	今回は海岸線の状態のデータで良いのか。
委員	どういう工事がされて生物多様性にどのような配慮がなされているのかというところは地域戦略的には把握した方がよいのではと思う。
委員	国立公園内の工事には許可があるので、そうであれば何らかのデータはあると思うので後日確認する。
会長	(自然) 海岸の工事は市ではどこの部局の担当になるのか。
事務局	基本的には県の管轄になるが、管理を委託されている場合は、支所産業課や建設課が対応している場合もある。
委員	今回の評価シートは、全体的に倉敷市の地域戦略の担当部署(環境政策課)に必要な情報が集められてないのではないか。 足りていない情報を集められるような体制を(倉敷市役所内だけでなく県や環境省とも連携)作れればと思う。
会長	海岸についてはデータが古いので「減少している傾向にある」と言うのはどうかとも思う。把握している部署はあるのか。
事務局	最新のデータは確認してみるが、過去とのつながりを持ったデータになるかどうか分からないのでそこも確認する。

委員	<p>9月初め頃に環境政策の不満が目立つという県民意識調査が出たが、8割強が満足だが不満も目立つということで、例えば海のごみの対策は良いが（廃棄物の具体的なデータが出ている）、こういった活動を評価する機会があればと思う。今朝の新聞では環境政策に取り組む倉敷市の団体が二つ表彰されていたが、埋もれている、見落としている（活動）事例があるのではないか。海ごみ、食品ロスの関心、最近はSDGsの問題で国際目標も出ているため、この中に組み込んでいったらどうか。</p>
委員	<p>今大きな問題となっているプラスチックごみは、今年はコロナウイルスでほとんどが中止になったが、子供相手の観察会の際、帰り道に落ちているPETボトルやビニール袋を拾って捨てようと言うとみんな一生懸命にしてくれる。小さいときからの意識づけをやらないといけない。人に見えないところ、例えば島のほとんどの人がいかないところ、鷺羽山の海岸の松林の中はPETボトルの山である。市民活動で時々回収はするが一向に無くならない。海流が早く海流に乗って溜まる。この辺の対応も取ってもらえたらと思う。</p>
事務局	<p>具体的に何が出来るかは把握できないが、関係部署と相談しながら進めていきたいと考えている。次期目標策定時にも検討する。</p>
委員	<p>海ごみの話だが、次期目標に入れるか入れないかと言うよりは、今どうしていくべきかと言う話だと思う。倉敷市一般廃棄物対策課との仕事で水島財団は流域の7市3町でどれくらいの量が発生しているかという調査をしている。7市3町の地域の方（高校生や住民団体の方）と一緒に拾って、どうやって発生させないかということも一緒に考えながらしており、内陸の人と海側の人と連携しながらしていくことが大事と思う。海で大変な状況を発信して、どういうところに溜まりやすいかなどを川の上流の人に教えてあげてほしい。最上流部の新見高校のボランティア部で熱心に取り組んでいて、そういうことも共有できればと思う。先日、高梁川流域連盟の一斉ごみ調査のことを担当者に伺ったが、企業の方もたくさん職員が協力してくれている。どういう企業が頑張っているかなどの情報交流も出来ればと思う。</p>
会長	<p>他の自治体との情報交換は難しい部分もあるかと思うが、できれば素晴らしいと思う。目標の中には取り入れていけるか。</p>
事務局	<p>目標の中に入れるかどうかは検討してからの話ではあるが、今年度の一般廃棄物対策課で調査した海ごみの内容については、流域の市町に対し来年度以</p>

	降啓発していこうと考えている。
委員	資料1 2ページ目 右下の「外部データ」 岡山県版のレッドデータブック 2009と2020の比較をしているが、県全体では選定種の合計値が1250種⇒1485種と増えているのに対し、倉敷市では635種⇒558種になっており、県全体は増えているのに倉敷市が減っている、また非公開の生息地についても387⇒33種と大きく減っており、これはどのように解釈したらよいのか。
事務局	2009年の倉敷市のデータは確認場所が特定できていない非公開の種が387種、2020年は非公開データが少なくなり33種となっているが、これは非公開の生息場所が確認されていなかった種の生息場所が明らかになったことで元々倉敷に生息していなかったものが判明したことで数が減っている。(今までは非公開の種が多く、非公開の種も含めカウントしていたため)
委員	生息地が分かっている種についても減っているのか。
事務局	表面上の数値は減っているが、分布が確実にわかっている種については増えている。
委員	希少種が減っているような誤解を与えないように、備考でも構わないので記載してもらえればと思う。
会長	哺乳類については、県では2009年は21種、2020年には26種に増えた。2009年版は分布域を公開していなかったためそのまま倉敷市に21種がスライドされていた。倉敷市で確認できていなかったものが2020年はかなり分布域がはっきり書かれ、倉敷市で確認されていないものが数の減少として表れているので全体としては増えている。淡水魚なども同じような状況である。岡山県版のレッドデータブックの掲載の仕方が変わったためである。逆に、どういう表現で記載したら良いか。
委員	誤解を与える可能性もあるので、あと何回かある会議の中で事務局と打ち合わせして詰めていってほしい。
事務局	一度案を作って、メール等で確認させてもらい、反映して最終案とさせてほしい。

委員	資料1 13ページ 数値目標6-3「自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子供の割合」 全体に対しての割合が書いてあるが、学年別にはなっていないのか。例えば、学年が上がるごとに楽しいと思う割合が上がっていれば、環境学習の効果が出ているように感じるし、逆に下がれば学年が上がっても数値上がるような施策が必要ではないかと検討できるのではないか。学年ごとの数値があれば知りたい。
事務局	現状ではとりまとめは、代表のクラスでアンケートを取っている状況である。細かい確認は出来ていない。
会長	この年代の子供たちは成長に合わせて興味の向かう方向も変わっていく可能性もある。同じ集団を例えば5年間追いかけると一定のデータになるかもしれないが、サンプリング調査なので対象集団が変わってしまう。どれくらい正確なデータが出るかは何とも言えないと感じる。
事務局	2020の評価についてはこれ以上評価するのは難しい。次期短期的目標の中では出来るだけアンケートではなく、実質的な数値が拾えるようなものに項目を変えていきたいと考えている。
会長	具体的なアンケートの取り方などについて意見、見直しはあるか。
委員	学校ごとに依頼してアンケートを実施することもあるし、アンケートにこだわらないのもありかと思う。学年をはっきりさせることや地域を固定して定期的にモニタリングするなど評価はできると思う。
事務局	最終版として出している2020年の評価はデータが現状のものしかないので細かく評価は出来ない。今後、2030年目標でアンケートを入れる場合は検討させていただければと思う。



事務局	<p>(議事(2)次期短期的目標の見直しに対する事務局案について説明)</p> <p>※資料修正</p> <p>【資料3】2ページ 短期的目標(2030)欄</p> <p>(3) ×生物多様性に係る地域評価手法を確立している ⇒○...確立させている</p> <p>【資料3-1】取り組み</p> <p>(2) 生物多様性の損失を食い止める(④, ⑤, ⑥)</p> <p>(3) 地域の希少な生物種・生態系が保存され... (④, ⑤, ⑥)</p>
会長	<p>先程の説明について、委員の皆様からご意見やご質問はありますか。</p>
委員	<p>資料3 2~6ページ 数値目標</p> <p>① 目標値の欄の目標年度が項目により違う理由は。</p> <p>② 基準値や目標値が空白の欄はどうするつもりか。今後決めていくという意味か。</p> <p>資料3 5ページ 数値目標3-3 新規就農者数</p> <p>③ 基準値は15人、目標値が120人増だが、12年までの累計人数が120人になれば良いのか、R12年の時点で120人になれば良いのか、どちらか。</p>
事務局	<p>① 目標年度は各担当課の現状の最新の目標値を記載している。本来なら令和12年に揃えるのが妥当だが、現状は各担当課での目標数値をそのまま転記している状況である。</p> <p>② 担当課と協議している段階であり、今後示していくようになる。</p> <p>③ 累計なのか、単年度の数かは確認して次回に示す。</p>
委員	<p>目標値は例えば10年先の話なので、今こう言う前提でこの目標値を置いているということはまとめているのか。例えば、目標値空欄で、全体で評価するために設定したものもあるが、それをどう使うつもりなのか。</p>
事務局	<p>例えば基本目標3の3-1~6については、各担当課が定めている目標値なのでそれについては目標値に対しての進捗状況は示せる。</p> <p>3-AやBについては、基本的には各担当課で目標値を定めていないが、現状、数値がどのようになっていったか傾向を見るように評価していけたらと考えている。</p>

委員	例えば、世の中の環境が変われば目標の数値が変わるものもあるかと思うので、今こう言う環境だからこの数値を置いたと残しておかないと後で評価する時に困らないか。
事務局	もう少し細かい説明が必要であれば残していく考えで進めていく。
会長	社会や世の中の状況が大きく変わる可能性（例えばコロナ、国際情勢など）が出たときに、目標値に固執してしまわないよう、中間見直しのような文言を入れることは可能なのか。
事務局	第三次環境基本計画などと併せて必要とあれば検討させてほしい。
会長	状況が変われば目標に追いつかない等もあるので今後の審議会もあるので検討してほしい。
委員	資料3 2ページ目 ① SDGsの4の項目も追加が必要ではないか。 市民参加型の調査や観察会は学習の意味合いもあるので。 ② 数値目標1-2 市民参加型の生き物調査 報告件数は市民団体から市の環境政策課に情報を寄せてもらう必要があると思うが、寄せてもらうための情報収集を丁寧にする必要がどのように考えているか。 資料3 5ページ目 ③ SDGsの12の項目も追加が必要ではないか。 取り組みの「②生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の推進」がある中で数値目標は3-6の1つしかない。先ほども指摘した点だが、3-6の数値は下がってきているが②の評価はこの項目しかないため大事な部分と思う。例えば、環境政策課から企業への働きかけをしているのかや、企業のCSR報告書をチェックして情報を収集しているのか等が大事ではと思い、敢えて12の項目を入れることで意識されるのではないかと思う。感覚で項目を入れるというよりは、17の項目の下にある169のターゲットの中でも関連するものもあるので、検討してもらえたらと思う。 資料3 6ページ目 ④ SDGsの4の項目も追加が必要ではないか。

事務局	<p>SDGsのマークについては今回の意見を反映して検討する。</p> <p>②については、市民の結果はHP上またはメールで集計する方法で考えている。</p>
会長	<p>報告件数については、倉敷市は自然史博物館があるので、この種の報告を取りまとめるだけでなく博物館友の会会報の『しぜんしくらしき』というかたちで出版もしている。例えば報告に対する同定のミス等の検証作業は必要と感じるが仕組みづくり等考えないといけないのではないか。</p>
委員	<p>事前に事務局から相談も受けているが、生き物全体を対象とした調査では、正しい情報が集計できているかどうかの検証は非常に大変である。やり方としては、専門家ではなくても同定ができるようなものに絞ったほうが良いのではないかと考える。専門家が関わろうとすると、予算的あるいは時間的に労力がかかりハードルが高くなってしまうので、一般市民が気軽に情報を寄せられるような仕組みができればと話をしている状況である。</p>
事務局	<p>③3-6の質問については、どういった内容をしているか事務局ではっきり把握していないので、確認してお知らせする。</p>
会長	<p>生き物調査の話と関連するが、資料3 2ページ 数値目標1-4の標本登録件数の件について、例えば倉敷市で特定の希少な生き物が見つかって、標本が取れて、自然史博物館に登録することになり、それが積みあがってきた場合、どういったかたちで資料を市民の財産として蓄積していくかというのも重要になる。バックヤードの維持・メンテナンス等も含めて1-4に含められないかと個人的に感じる。</p>
委員	<p>博物館の所有する標本の数を示す数値として2通りあり、1つは収蔵点数(総点数、持っている標本の総数)、1つは登録点数であり、今回の件は登録点数の方であり、登録して整理が完了すればデータベース化され、どこにどういったものがあるかわかるようになりアクセスがしやすくなる。展示や貸し出し、標本を用いた研究、データを取り出しての解析など、活用できる状態になる。ここでの数値は活用できる状態での標本の点数の数値になる。収蔵スペース等のハード面は収蔵総点数のことになるが、その目標値が設定されると自然史博物館としてはありがた</p>

	<p>いが、この計画の中でそこまでの設定は難しいと思うので、博物館を中心に努力する。関連性はあるので関係あるところは支援いただければありがたい。数値自体は生物多様性に係る検証に使える標本の母集団が増えることを目標としており、それ自体は良いと思う。ただ、資料3 2ページの短期的目標(2)に対しては1-4の博物館の登録件数しか数値目標が無いので、これだけを持って評価手法を確立させているとしてよいのかについては、博物館としては若干不安がある。</p>
会長	<p>数値目標1-1~4は(2)地域評価手法の確立に関連する。あまり複数をいれるのもどうかとは思いますが、事務局の意見はどうか。</p>
事務局	<p>該当取り組みについては、事務局の案として現状出しているのので、検討いただき、追加や重複表記が必要であれば対応する。</p>
委員	<p>標本の登録点数について、恐らく自然史博物館の全分野の合計点数だと思うが、例えば植物で言うと標本を10点増やすのは大変な作業ではないが、哺乳類の点数を10点増やすとなるとかなりの労力になる。全部足した数値を目標にしてよいのか。博物館としては分野ごとに分けた方が、都合が良いのか、足した方が良いのか。</p>
委員	<p>ここでの数値は、自然史博物館の4分野(地学、植物、昆虫、昆虫以外の動物)の合計の点数であるが、博物館の中期計画で出ている数値を引用しており、博物館が目指すところと生物多様性地域戦略が目指すところが変わらないようにしている。自然史博物館としてはこの数値を出すために4分野の数値を合算しているが、それぞれの分野の数値で目標値は持っていない。あくまで自然史博物館としての総合的な目標数値の設定としているので、分野によって数値は違うが、全部を合わせた数値で問題ない考える。</p>
委員	<p>① 資料2 岡山県の生物多様性地域戦略「自然との共生岡山戦略」との整合性を取る、あるいは生物多様性の国家戦略と調整すると記載あるが、現時点で何か整合性を取る必要があるか把握しているか。</p> <p>② 資料3-1 下の欄外部</p> <p>「施策体系が確立されている」は達成したため削除するとあるが、削除しても良いのか。先ほどの議論であったように、新しい事項が出てきたり、国際情勢の絡みもあり、確立されてそれを維持していくことは必要</p>

	<p>と思うので、施策体制を維持していくというのは短期目標として、または長いスパンでの目標として「維持」というかたちで新たに設定し直しても良いのではないか。</p>
事務局	<p>① 現状では、国の方で5月に会議が開催される、また国家戦略の見直しをするという話は聞いているが、それ以外は把握していない。</p> <p>② 維持していくことも大切かと思うが、長期目標の中でも各項推進されているということも挙げられているので、改めて表記を見直すかは検討させてほしい。</p>
委員	<p>倉敷市の地域戦略の特徴として、岡山県等より先に作ってしまった部分もあり、岡山県も2032年度以降見直しも入るし、国家戦略の方も今回の倉敷市の見直しの後に見直される。それを踏まえて、施策体制の微修正が途中で必要になるのではと思うので、「維持」に変えて残したほうが良いのではと個人的には思う。</p>
会長	<p>状況が変わった時に見直しが可能なような項目を入れておくかという話になるかと思うが、あと2回審議会もあるので、今後検討していきたい。</p>
委員	<p>① 資料3 6ページ      取り組みが①～⑥までであるが、数値目標に②と④の項目が無いが、これに関して具体的な数値目標を持って取り組むことはないのか。</p> <p>② 資料3 3ページ 数値目標2-2      温室効果ガスは菅総理大臣が2050年までに0にすると言っている。生物多様性については、温暖化はかなり影響があるので、見通しがあれば聞きたい。</p>
事務局	<p>① まだ調整中であり、数値目標がはっきりし次第、記載する予定である。</p> <p>② 温暖化については、温暖化対策室で審議会を開くなどして今後の計画について決定している。国や県などの計画に合わせて計画している状況かと思う。</p>
委員	<p>資料3 6ページ目      評価項目として出前講座の人数やエコツアーの件数が数値目標に入</p>

	<p>っているが、そこに年代や出前講座の学年を入れると良いのではないか。SDGsの基本理念にも「誰1人取り残さない」とある。単に数だけだとコロナの影響等で減ったりしてマイナスになるかもしれないが、様々な年代が参加しているとあれば、SDGsの基本理念に則った活動が維持できているという評価ができる。</p>
事務局	<p>数値目標については、出来れば人数での把握にしたい。評価をする際に必要なデータがあれば可能な範囲で収集する方向で進めたいがよろしいか。</p>
会長	<p>委員の発言は質的にどういう評価をし得るかという問題を提起しているのだと思う。ざっくりした数値の評価だと実際にそれが進んでいるかどうかという中身の評価に繋がらない場合もあり得るので、もう少し質的な側面にも繋がるようなかたちに何とかならないか。内容の検討がもう少し必要ではないか。</p>
事務局	<p>項目については再度検討し、次回に案として出すように検討する。</p>
委員	<p>食品ロスやPM2.5についての環境施策は2030年度に向けて考えなくてよいのか。</p>
事務局	<p>生物多様性の範疇以外のところもあるので、環境基本計画等で総合的に考えるとし、生物多様性の数値目標としては現在考えていない。</p>
委員	<p>1つ前の委員の意見について同意であり、数値目標で子供と言っても子供の範疇が曖昧であると感じる。</p>
委員	<p>今後に関するデータの示し方について、資料3-2ページの1-A 国勢調査の魚種の件数であったり、資料3-3-3ページ レッドデータブックの種数であったりは、表記の仕方は検討しないとイケないが、この数値が出てきたこと自体は大変良く思う。もう一步進んで、種数が増えた・減っただけではそれ以上考察ができないので、できれば何の種が減った・増えたかが分かるようにしてもらえると、その生物によって環境が推測できるので、そういうことが見えるデータを補足で良いので付けていただくことを検討してもらいたい。種群が変化したことで推測できることもある。次の対策等も考えやすくなる。</p>

委員	河川水辺の国勢調査を提案した時、指標種も提案したので、それも活かしてもらえたらと思う。
委員	水辺の国勢調査に関しては、魚類だけではなく他の分類群の生物についても実施している。生物多様性を評価するのであれば、魚類だけではなく、他の分類群も含めた合計種数で評価すれば、より生物多様性の評価に繋がるように思う。
委員	資料3 3ページ 数値目標2-7 特定外来生物についてであるが、他の外来生物に関する動向も気になるところかと思うので、水生生物だけでいろいろな生物が入ってきているので、特定外来生物でなくても良いので、その評価についても1つ項目があっても良いのではと感じた。
会長	具体的にはどういったイメージが良いか。
委員	全部の外来種を把握という訳ではなく、希少種と同じで何かをピックアップして、例えばその確認地点数が増える・減る等で評価できれば生物多様性の損失を食い止めるということに繋がるかと思う。
事務局	いただいた意見は次回の案で反映できるものは反映させて示したいと考える。
連絡事項 (事務局)	今年度はあと2回開催する予定であり、次回は12月下旬または1月上旬に開催予定なので、予定が分かり次第早めに連絡する。

以上

議事録承認

会 長 小林 秀司



署名委員 阪田 睦子

